

分類	主な意見の概要	事業者の見解
陸域生態系（つづき）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希少種である小型コウモリ類の重要な生息環境の消失や攪乱は回避不能なこととして前提とされており、やむをえないこととされている。このような姿勢は認められるものではない。</li> <li>・建設中を含む、将来の生息環境（小型コウモリ類）に対する決定的打撃もやむを得ないとしている。</li> <li>・コウモリ類の個体群の存続に影響を与えることは「13年報告書」、「14年報告書」によって明白になっている。それにもかかわらず、準備書には影響がある、と明記せず、代替案を提案することで、建設は大前提であるかのような記述は環境影響評価書としては不適切です。コウモリ類の洞窟間の移動や独立した個体群の形成など、準備書のもとになった調査報告書と準備書の調査結果との間に恣意的な記述の改変が多数見られ、信頼性が損なわれている。</li> <li>・空港建設を進めるための代替案を提案することで、建設は大前提であるかのような記述は不適切です。予測・評価を「新空港を建設することは、石垣島のコウモリ個体群の存続に影響を与えることが13年度及び14年度の調査結果で明らかになった。したがって、環境保全の見地から、新空港の建設は見合わせるべきである。」と訂正すべき。</li> <li>・この準備書に記載されている内容は報告書のものであまりにもかけ離れているが、準備書にその理由の記載もない。沖縄県は環境影響評価方法書に基づき行われた調査の結果を改竄及び隠蔽し、影響評価や移動調査の提案、異例の提言を無視して準備書を作成したと言わざるをえない。</li> <li>・これ以上の自然破壊を行う事は、沖縄諸島に生息するコウモリの生息を脅かすものと明記すべき。</li> <li>・環境保全措置の効果の不確実性の項目において全て「検証が困難」であるにもかかわらず、コウモリ類への影響が概ね回避又は低減されるというのは間違い。</li> <li>・島内の未調査地域が多いことをもって今後もっと生息地が見つかるであろうと解釈し、特殊な生息条件をもつ希少コウモリ類の環境喪失を正当化させることは、根拠がなく誤った非科学的結論である。また、洞窟間移動の現況把握のための標識調査結果等の肝心の資料は全てマスキングされていることから検証不能である。コウモリの生息状況の変化を最小限に低減できるとあるが、実証されている訳ではない。</li> <li>・A洞窟やD洞窟がコウモリ類に利用されなくなる可能性は低いと考えられると準備書に書かれているが何の根拠があるのか。</li> <li>・不確実性に対する検討が不十分。コウモリ類が洞窟から逃げた場合という最悪の事態の予測も行い、その影響の評価と対策を行うべきである。</li> <li>・コウモリについての実効性のある保全策は示されておらず、残る2ヶ所の洞窟で問題が減少することの根拠も明確に示されていない。それで予測、評価したと言うのは、あまりに粗雑である。</li> <li>・楽観的解釈（小型コウモリ類について）の積み重ねであり、生息環境を失わせることの科学的根拠を欠いている。</li> <li>・A洞窟の最奥部こそコキクが出産、保育さらには冬期の休眠場所として通年利用されている。準備書では「コウモリ類の生息に影響が及ぶ可能性は少ない」としているが、科学的根拠は全くない。科学的根拠に基づく予測、評価をすべき。</li> </ul>	<p>準備書では、平成15年度までの調査結果をとりまとめ、記載しています。</p> <p>移動経路の創出、餌場の確保、ねぐら周辺環境の維持、工事中の騒音・振動の影響に対する監視、人工洞設置の検討などの保全措置を講ずることにより、事業実施区域の個体群の存続は図られると判断しています。</p>